

わずか 4km の中に詰め込まれた
オリエンテーリングの醍醐味

「三段池公園」コース
京都府 No.3 4km 10 ポスト



好評につき公認化

昨年秋、久々の新設コースが岐阜に誕生という、パーマネントコースファンにとっては嬉しいニュースが飛び込んできました。雪解けを待って利用が可能になるのを心待ちにしていたところに、またまた新コース誕生の報せが入ります。

福知山市をサービスエリアとする地域紙「両丹日日新聞」の1月23日付記事に「三段池公園にオリエンテーリングの常設公認コース」の見出しで、コースが整備されることが初めて明らかにされます。この記事には次のように開設に至った経緯が記されています。

「福知山オリエンテーリング協会が4年前、自然に満ちた三段池公園に親しんでほしいと、市、市都市緑化協会の許可を得て独自のコースを整備したところ好評で、今回公認の新コースの設置が認められた。府体協の助成を受ける。新設するコースは、三段池公園総合体育館前の円形広場をスタート・ゴールに、公園内の丘陵地など10カ所に設けたポストを巡る4キロ。福知山協会と、府協会に所属する京都、朱雀、みやこ、京大4つのクラブが昨年9月から2カ月がかりで調査し、体育館、児童科学館、動物園、植物園、多目的グラウンドなどの施設がそろい、四季を通じて楽しめる三段池公園の魅力を伝えることができるコースをつくった。24日に両協会メンバーが標識(ポスト)や看板を立てる予定だが、コースが使えるのは3月以降になる」。



そして3月20日の記事で「常設公認コース完成」の見出しで、4月1日から利用開始となることが明らかになりました。

岐阜の新コースは高原地帯にあることから夏の楽しみにして、最新コースから先に回ることになります。

ノスタルジックツアー

広島から福知山までは3つのルート(姫路から播但線と山陰本線、新大阪から福知山線、京都から山陰本線)でアクセスできます。この日はのぞみ号で新大阪まで向かい、特急北近畿号に

乗り換え福知山を目指すルートを選択します。新大阪の新幹線ホームから在来線ホームへ行くと、特急列車はすでに入線して待っていてくれます。昔の国鉄時代の塗装のままのL特急で、最新の洗練された車両よりも、旅の気分がぐっと盛り上がります。

新大阪を出発し、大阪駅を經由して尼崎からは福知山線に入っていきます。この線区に入ると4年前に発生した脱線事故がいやがうえにも想起されます。事故に配慮し、尼崎と塚口駅の間では減速し、事故現場をゆっくりと列車は走行していきます。右手に見えるマン

ションには、事故当時の損傷がいまも残ったままでした。

三田、柏原とパーマネントコース縁の駅を通り過ぎ、新大阪から1時間40分で福知山駅に到着します。北近畿3号に乗車した私の到着時刻は10時43分です。

スポーツの拠点

駅から現地までは路線バスもあるようですが、詳しいことが分からなかったため、タクシーを利用します。10分あまりの乗車で料金は1,100円ほど。徒歩だと30分はかかるでしょう。「以前は池にボートが浮かび、賑わっていた。それも今はなくなってしまった」というタクシードライバーの話し振りで、すっかりひなびてしまったのかと思われましたが、到着してみるとあまりの人の多さにびっくり。体育館ではバレーボール大会が開かれ、広場では緑化まつりが催され、実に賑わっています。

体育館への登り口付近に設置された案内板もすぐにわかり、向かいにある地図取扱所の福知山市武道館を訪れます。窓口でマップを請うと、カウンターに置かれたケースを指差し、「ここにあるから自由に持って行ってください」との返事。A4判のカラーコピーマップで、紙質がぺらぺらなのと、窓口の対応もOL協会から受託しているだけ、という雰囲気だったのが少々残念。そしてケースには「オリエンタリング」…。コース管理は福知山市教育委員会生涯学習課社会体育係(0773-24-7069)となっています。

案内板には拡大したマスターマップ掲示されていますが、マップにはコースがすでに印刷されていて転記の手間要らず。

地図と案内板を見て謎な点が公認のナンバー。京都府ナンバーが3、公認ナンバーは表記がありません。京都No.3と言えば廃止となった「西舞鶴・青谷」コースのもので、本来ならNo.12となるはず。空き番号を埋めるための措置なのか、その意図が不明です。JOAからいまだHPでの告知がなく、785番目の公認はこれからなのかもしれません。

巧みなコース設定

市内の高台に設置された三段池公園内に全てのポストが設置されています。園内の4kmのコースと聞くと、超初級の印象を抱くところですが、実際のコースは実に巧みな設定。アタックに頭を捻る場面も少なくありません。

11時9分に歩き始め、最初のポスト

を目指します。総合体育館の前から陸橋を渡り、ナイター施設も完備された立派なテニスコートへのアクセス道路に入ります。うっかりしていると「水と緑と命のモニュメント」方面に釣られていってしまうので要注意。トイレの裏から黄色い花と白い綿帽子のタンポポが群生する草地に分け入り、小さな土盛りを超えると、森に続く小道の入口にポストは立っています。京都府の他のコースで使用されている上下の蓋のないタイプのポストで、支柱と頭を支える鉄板の青色が、鮮やかに光を反射しています。

テニスコートの南側から階段を上り、モニュメントを経由して2つめの橋を渡ります。多目的グラウンドの南に続く道路から遊歩道に入ると、眼下に第2ポストが確認できます。道端ではなく、やや下ったところに設置するところが、このコースの面白いところ。斜面を下って到達します。

第3ポストは橋まで出戻り。公園北側に連なる標高500mほどの鳥ヶ岳や鬼ヶ城の山並みを正面に見据え、大はらっぱを回りこんでいきます。最高気温29度の予報の夏を感じさせる気候の中でもジョギングを楽しむ人の姿がちらほら。フェンスの北端にある第3ポストまでは、再びタンポポロード。黄色い花の咲き乱れる中を歩きます。

道路に降り、交差点を過ぎて再び総合体育館までやってきます。駐車場の集中するエリアから都市緑化植物園に続く道に入るとほどなく、右手上方、林の先に赤色が見えてきます。道を回らずにそのまま林を突っ切り第4ポストに到達。

南に下ると都市緑化植物園のガラス張りの大きな建物が見えてきます。ここは、単なる植物園ではなく、福知山市で進めているという全市植物園化構想の核となる施設だそうです。この先にある分岐は悩みどころ。ポストは道の中間地点にある様子です。私は右手の広い道を選び、林を貫いた先の左手上方にポストを発見しました。ポスト位置は「尾根」。こんなところも並の公園コースではありません。

青空広場の脇を下って道に戻り、さらに南に向かうとそこは動物園の入口。さすがに入園まではすることなく通り過ぎ、丘を越えていくと、フェンスが見えてきます。なんだろうと覗いてみると、本来動物園の中にあるはずのサル山でした。ここでは「猿が島」と名づけられ、少数のニホンザルがアット

ホームな佇まいを見せています。第6ポストの位置説明は「沢」。道から右手を見ながら坂を上っていくと、下方に確認できます。

沢をそのまま下って自由広場を抜けると、初めて三段池が目の前に姿を現します。池に浮かぶ松風亭を横目に見ながら池に沿って歩き出すと、ほどなく正面に第7ポストがあっさりと登場。小道と建物が絵になる景色の中に直立しています。

池の土手を回り込み、第9ポスト近くの墓地までやってきます。折り返すように南に向かうと目前に丘が待ち構えています。そこは「猪崎(いざき)の城山」と呼ばれる猪崎遺跡で、16世紀に盛んに造られた山城だそうです。小道を登っていくと、タンポポが咲き乱れる広い空き地があり、石碑の後ろに第8ポストが設置されています。

第9ポストもアタックの面白いところ。ポスト位置は第6ポストに続いて「沢」。墓地のある交差点まで出戻りし、道路をわずかに北に向かいます。ここから視界良好な林に入り、プチコンタリングをするとポストに導いてくれます。近くには福知山OL協会が設置したミニポストが置かれていました。

レンガ造りの藤棚や雄々しくそびえる松林を池のほとりに眺め、道の交点という分かりやすい場所に設置された最終ポストを発見します。

緑化まつりで賑わう円形広場を通過して、このコースも終了です。

初心者にお勧め

わずか4km、所要時間1時間13分というコンパクトなコースでありながら、醍醐味を堪能させてくれる好コースです。初挑戦がこうしたコースであれば、オリエンタリングが大好きになってくれそうな気がします。

ゴール直後、案内板の前を通りかかった母子が「オリエンタリングあるんだ、やりたいね」という嬉しい会話を交わしていました。ええ、ぜひやってくださいね。

(2009年6月6日 踏破)
(大高竜亮)